



2017年6月8日発行 第34号
事務局長 小島 彬
TEL/FAX 077-589-3724
akrkojima@ybb.ne.jp

日本科学者会議第48回定期大会報告

5月27～28日に中央大学理工学部で開催された日本科学者会議第48回定期大会に参加したので、概要を報告する。議案の52期活動報告と53期活動方針は、一部訂正のうえ採択された。私は、支部大会の意見を汲んで『日本の科学者』の普及と豊洲移転問題について発言した。大会資料16に『日本の科学者』定期購読のお勧めちらしが配布されており、事務局が対応するとの回答を得た。

特別議案Ⅰ組織改革については、組織特別委員会の検討経過が報告され、日本科学者会議会則改定案が提案されたが、大阪支部、京都支部、東京支部などから修正提案が出されて紛糾した結果、会則改定案の採択は先送りされた。

特別議案Ⅱ研究基金及び財務会計については、回収金の分配、研究基金、財務会計、日本科学者会議会計規則案などが報告され、会計規則案は一部訂正のうえ採択された。なお、研究基金の損失に対して有志から多額の寄付がされたことも報告された。

大会決議は、①軍事研究反対、②原発ゼロ社会の建設、③憲法改悪反対、④辺野古埋立て中止、⑤共謀罪法案の廃案の五つが提案され、一部訂正のうえすべて採択された。

質疑討論の中で、東北大学前総長の研究不正問題が宮城支部の大村泉氏から報告され、5月18日付け朝日新聞記事の滋賀県立大学の原田笑美子さんのコメントも紹介された。

東京支部の河上茂氏から『日本科学者会議東京支部創立50周年記念誌』の発行が紹介され、一冊購入した。

高知支部の岩田裕氏から「原水爆禁止2017年世界大会・科学者集会 in 高知」が7月30日に開催することを紹介された。

愛知支部の松田正久氏から12月に名古屋市で「原発と裁判」をテーマとして原発シンポジウムを東海地区と原子力問題研究委員会の共催で開催し、井戸弁護士との講演と滋賀支部からも実行委員を出して欲しいと依頼された。

(全国幹事・大会代議員：畑 明郎)

支部講演学習会「築地市場の豊洲移転問題」についての粗削りレポート

滋賀支部主催の講演学習会は、5月20日に明日都浜大津ふれあいプラザにて開催された。豊洲移転問題の当初から関わり、段ボール数個分の資料を持つという日本環境学会元会長の畑明郎氏(当支部代表幹事)が、パワーポイントを使って分かり良い説明をされた。畑氏は最近のTV報道番組でも、土壌汚染の専門家として顔を拝見する機会が増えている。会場では、市民を含め30数名の参加者が熱心に講演を聞き入り、また後の質疑応答も暑い議論が交わされた。

[講演の概要]

1) 築地市場移転問題の経緯

世界最大の水産物市場である築地市場の移転問題は、2001年、当時の石原知事による豊洲移転決定以降、紆余曲折の経過をたどることになる。移転先の東京ガス豊洲工場跡地は高濃度の土壌汚染地であることなどから広範な反対運動が巻き起こった。日本環境学会もシンポジウム開催や声明発表などでかかわってきた。

2) 東京ガス豊洲工場跡地の土壌汚染

東京ガスは、当時、石炭からガスを製造しており、その一連の過程で重金属やシアン、ベンゼンが産生するし、また触媒にヒ素が使われるといった状況であった(関西でも、大阪ガス工場跡

地問題があることは忘れてはならない。他人ごとではない)。2002年の東京ガス自身による土壌汚染調査結果は、重金属や揮発性物質などについて環境基準を超え数桁高いものもある大汚染の結果であった。2007年に石原都知事は専門家会議を設置し検討させた。再調査の結果も最悪レベルであった。土壌汚染対策で、東京ガスはバイオや加熱処理に100億円ほどかけた。豊洲の汚染土は搬出もされ、一部は尼崎市(関電ジオレ)や大津市(山崎砂利商店)など、私たちに身近な所にもきている。

3) 豊洲市場の土壌汚染対策の問題点

2008年には専門家会議を解散し、安上りを目論む技術会議を介した都のコントロール

が始まる。豊洲新市場の土壌汚染対策として、4.5mの盛り土や敷地周囲の遮水壁と、地下水位を海拔で2m以下にするための揚水設備などが設置された。専門家会議が再開となった2016年10月に揚水が開始されたが、地下水位は今に至るも3m前後と高止まりで、盛り土の再汚染の可能性がある。豊洲新市場建設費はゼネコンの介入もあり6,000億円近くにのぼった。約900億円の土壌汚染対策は失敗で無駄遣いに終わったと演者は言う。

4) 再開された専門家会議の問題点

今回の専門家会議が地下空洞を既成事実とし自然汚染を強調する方向に転じたことは問題である。その後の地下水調査(ゼネコンの手によるお手盛り?)が随意契約でなされていたが、一般競争入札された9回目調査でショッキングな高レベル汚染が判明した。採水方法にも疑問が残る。「地下の汚染は残るが、地上は安全」とする同会議の上下分離した考え方は成り立たない。シアン、ベンゼン、水銀などの揮発性物質を無視している。

5) 豊洲移転中止と築地市場再整備の展望

土壌汚染が解消されず、地震での液状化の恐れが高い豊洲への移転は不合理である。

築地バッシングがいま声高になされているが、築地再整備に踏み留まるべきだ。

[レポーターの個人的感想]

豊洲移転問題にも“科学の黒い影”が差しているよ

うに思える。国や行政、巨大企業があらゆるところで持ち出す「科学的に安全・安心さが証明されている／問題はない」という見解の安売りには辟易する。すでに原発と放射能、残留農薬(特に浸透性農薬)の場でもおなじみだ。しかし、今日の演者の畑氏のように、10年以上もしつこく(失礼!)喰らいつき、市民・大衆の立場を譲らない研究者の存在は、講演を聞いていて、改めてすごい、頼もしいと感じられた。こういう科学者を応援したい。(尼川大作)

滋賀支部大会(5月20日)の報告

○大会議案は下記の単純な記載ミス(字句修正)を行なった上で可決されました。

p.2、下から3行目 「行った」→「行なった」

P.6、2段落目の5行目 「のに」→「に」

3段落目の1行目 「での」→「の」

同2行目 「きた」→「こなかった」

同3行目 「見出せなあい」→「見出せない」

4段落目の1行目 「学内に」を削除

滋賀支部会計2017年度予算

下部の<2017年度の方針>の3行目

「2018年度以降」→「2019年度以降」

○支部幹事は、幹事会推薦の各氏が承認され、第1回幹事会を開いて事務局長は続投することになりました。

○全国幹事と全国大会代議員に畑氏が選出されました。

○会計監査として引き続き担当者の継続が承認されました。

第2回支部幹事会:6月10日午後1時より

明日都浜大津1階交流スペースにて開催予定
議題は全国大会の代議員報告、支部大会決定による各分会活動の具体化、会計担当者の交代に伴う会計業務の協議その他。